



1970年代の技術革新に期待する

取締役 研究所長 須 田 健 二

1970年代の幕開けを迎えることとなったが、この70年代は産業史上どんな地位を占めるだろうか。1960年代は華々しく開花した革新的な技術を大型化・合理化した時代といわれている。

ポリオレフィン製造技術のような新技術は50年代に発展し、ポリエチレン、ポリプロピレンなどの製造設備は60年代に大量消費に支えられて大型化した。アンモニア、セメントについても同様である。

70年代は単に60年代の延長として製造設備の大型化がますます進む方向に向うのであろうか、それとも再び瞠目するような革新的な技術の誕生をみるのであろうか。

化学工業が将来とも高い成長性を予測されているのは、あくまで技術革新への期待によるものであり、70年代はその期待に応えるべき時期と考えられる。そして、その舞台に日本の化学工業が新しい技術をもって主役として登場することを大いに期待したいものである。

昨年7月の宇宙船の月着陸は人類史上画期的な壮挙であり、この運営がコンピューターによりコントロールされたことは科学技術の勝利ともいえよう。

しかもアポロ計画そのものが電子工学、化学工学、医学、その他各方面の技術の総合結果の成果であったことは大いに注目すべきことである。今後の技術の開発・発展に当たっても、異種技術の協力が必要であり、場合によっては企業間の連繋も必要であることを示唆しているものと考えられる。

しかしながら、新しい技術、あるいは発明は飽くまでも個人の独創性に根ざすものであるから、協調に努力しながらも個人の独創性の涵養に心掛けたいものである。